

令和元年度 第2回

川合市長と語り合うタウンミーティング

～川越市青少年相談員協議会、
川越市少年の船・翼修了者の会～



日時：令和元年10月26日（土）

午後2時00分～3時30分

場所：川越市中央公民館 3階軽体育室

参加者

川越市青少年相談員協議会 1名

川越市少年の船・翼修了者の会 10名

出席者

市長、栗原副市長、広報監、総合政策部長、市民部長、こども未来部長、環境部長、産業観光部長、都市計画部長、建設部長

意見数

分類	件数	内容	頁
子ども・子育て	1	・少年の船・翼事業の発展	23
都市基盤・生活基盤	4	・川越の交通渋滞 ・川越市駅の発展 ・街灯（防犯灯）の設置 ・自転車道路の整備	2 5 7 8
産業・観光	4	・Wi-Fiの整備 ・観光地の整備 ・観光地におけるごみ箱の設置 ・ときもの商品化と川越の魅力発信	4 9 10 19
地域社会と市民生活	1	・災害時における防災行政無線	14
住民自治・行財政運営	7	・フィルムコミッション ・若者への情報発信 ・SNSの活用①：ときも自身からの発信 ・SNSの活用②：共通ハッシュタグの使用 ・広報紙の配色 ・SNSの活用③：共通ハッシュタグの使用 ・SNSの活用④：投稿文面の工夫	13 18 20 21 22 22 22
計	17		

意見交換（要約）

《川越の交通渋滞》

意見 市街地の車の渋滞が朝や休みの日に結構多いので、その渋滞を改善できないでしょうか。また、北環状線が開通して、川越西郵便局のところの道路がつくられて結構スムーズにあそこら辺が動くようになりました。ただ、そこがスムーズになった分、ほかの部分で狭い道しか通り道がなかったりとか、迂回したほうがいいのに迂回しないでショートカットをしようとする車が出て、ショートカットする道が狭くて通りづらかったりと、そういう交通の発展に伴って生じる弊害みたいなところがあります。そういうところもどうかしてフォローしていただきたいと思います。あともう一つ、バスの状況について、時間帯によって混雑する状況があると思うんです。その点について、もっと情報の発信があれば時間帯を見てほかの交通手段に移行するとか、そういう別の手段をとれるようになると思うんです。そういう情報の発信をもっとしてほしいです。

建設部長 北環状線は、町なかの交通渋滞を緩和して町並みを保全していこうということで、ある意味、町なかの交通のバイパス的に外側に道路をつくったものなんです。それが今、川越日高線のところまで4車線でできました。そこはとてもスムーズになりました。町なかの交通も少し円滑になりました。

ただ、その先がおっしゃるとおり、2車線のままなので国道16号までの間が大変混むんです。そこについても4車線の計画がありますので、埼玉県で整備しているわけなんですけど、引き続き整備を進めていただくようお願いしています。

それから、確かにあの周辺の隣接の道路に混んでいるところがありまして、そこについてはフォローするように部分的に改善したり、それから、すぐ広げるというのは無理なものですから、市民部とも協力しながらグリーンベルトを引いたりとか、そういったことで対策をしているところです。

いずれにしても、今後ともその辺の整備を進めるように関係の部署、それから自治会の方とも話しながら調整して町なかの全体的な交通をよくするように頑張っていきたいと思っています。

都市計画部長 バスの遅れの情報とか現時点の運行の情報ということでは、バス停によっては次のバスが来るまで何分くらいですという掲示を出しているところ

もあります。また、お手持ちのスマートフォンや携帯電話で東武バス、西武バスのホームページを見ていただくと、バスロケーションシステムというもので、今この辺を走っていますよという情報が得られるようになっていきます。

スマホや携帯電話を活用していただくことで外出先でもある程度、今の交通情報、鉄道も含めて、いろいろな情報を把握することができると思いますので、ぜひ積極的に活用していただきたいと思います。また、川越市では川越シャトルというコミュニティバスを走らせておりますが、そちらは、今のところバスロケーションシステムには対応していないという状況がありますので、皆さんのご意見を踏まえながら、できることをやっていきたいと思っています。

市長 皆さんご承知のように、川越は城下町なんですよ。城下町の古い町並みが残っています。いい面は、一番街で蔵造りの町並みを見に来てくれる人が大勢いる、観光客が大勢来るといった面があるんだけど、城下町というもともと古いまちは道路の幅が狭くて交通には余り便利ではないという、そういう状況が川越には残っているということなんです。

一番現実的な解決方法としては、町なか全体を一方通行の体系にしてしまえば、車が通るのは1車線で歩行者の歩く部分もできるし、それから自転車が通る部分もできるようになります。ただ、交通について一方通行にすると歩行者天国にするためには、それによって利害のある人、例えば商店の人は歩行者天国にされてしまうと自分の商売のいろんなものを運び込む車が入れなくなっちゃうんじゃないかとか、そういう問題があるわけです。そういう利害のある人がいろいろいて、お互いに利益と害が相反するような人がいっぱいいるから、そういう人たちの理解を得ないうちは強制的にえいやとやってしまうわけにいかないという、現実に言えばそういう状況です。

とはいっても、ずっと町なかで渋滞が続いているという状況があるので何とかしなければいけないということで、都市計画部が中心になって地域の人たちと話し合いを進めながら、町なかの渋滞を解決するような交通方法を見出していこうと努力をしているところです。ちょっと時間がかかり過ぎているという面もあるんですけども、そんな状況です。

《W i - F i の整備》

意見 W i - F i の整備について、W i - F i というのは、まずインターネットをスマートフォンで使うときにすごく便利なんです。川越市内でも幾つか使える場所、例えば本川越駅とかでもW i - F i は飛んでいるなと思ったんですけども、もう少しスポットが増えればいいなという提案です。

例えば、私は旅行が趣味なんですけれども、海外旅行に行ったときにバスやタクシーの中、公共機関の中でもW i - F i が飛んでいるんです。だから途切れることなく移動できるので、とても便利な思いをしました。

これは、私たち、インターネットを普通に使うことができる人だけでなく、海外からの旅行者にも対応できるかなと思って提案させていただいています。

W i - F i が使えるとどういうことが便利なのかというと、例えば、地図のアプリだったりとか位置情報を調べるときです。このお店に行くまでどうしたらいいんだろうと調べるときに、歩きながらここの地点で地図を見て、この地点でまた地図を見ようと思ったときにW i - F i が切れてしまうと調べられなくなってしまったりとか、あとは、お店で何か聞きたいときにインターネットが使えないので翻訳ができなくなってしまったり、そういったちょっと不便なところがあります。

私自身もそれでとても助けられたので、ぜひ川越市もそういう面が発展すればいいなと思っています。

産業観光部長 川越市が取り組んで、W i - F i を設置している場所が、川越駅の東口と西口、本川越駅の東口、仲町にある鍛冶町広場、菓子屋横丁の近くにある元町休憩所、そういったところに合計で 13 カ所設置しています。

ただ、そこは、お話があったように途切れてしまうということがありますので、可能な限りつないでいくように考えています。

また、川越市が運用している「KAWAGOE FREE W i - F i」では、13 カ所のほかにも民間の市内の 11 店舗がそれに参加するというような形で取り組んでいます。

今後、可能であれば、例えば観光客なり市民の方が多く訪れるような場所を、言ってみれば商店街一本をずっと連続してW i - F i が使える環境を整備できればと考えています。

ご指摘があった車の中とかそういったところまでは考えが及んでいなかったのですが、

担当の部署に伝えて、そういったものも検討できるかどうか考えてみたいと思っています。

これは市役所だけではなくて、市役所の関連の組織もそういった形で進めたいというお話もありますので、可能な限り進めていきたいと思っています。

市長 商工会議所がW i - F i に関しては前向きというか積極的な発言をされていたけれども、あれは市とはコラボしていないんですか。

産業観光部長 商工会議所では、商店街の400メートルを全て整備していきたいということがございまして、現在、商工会議所でこのぐらいの費用がかかるんじゃないかという照会が市に来ています。

そこについても、やはり道端に置いておくというわけにはいきませんので、例えばお店の窓に近いところ、表に面したところに機械を置いてやっていきます。それを例えば何メートル間隔ぐらいに置いて結んでいくという形になりますので、そうするとお店の人にも協力をいただかないといけません。商工会議所としてもぜひやりたい、市としても何とかしていきたい、ただお金がかかるという中で、設置する場所がお店になることから、そういったところの人にも了解を得て進めていくといった作業が必要になります。ということで、そこにすぐいけるかというとなかなか難しい。ただ、市長が申し上げたように進めたいというところもありますので、市でも連携して進めるような形で準備をしております。

《川越市駅の発展》

意見 来年、2020年、いよいよオリンピックが開催されます。川越市でもゴルフ場を使って開催されるわけですがけれども、川越駅は、東口がちょうど令和2年をめぐりに歩行デッキの改良工事がされていまして、西口も、ホテル建設が順調で、そこに歩行者用デッキもできています。また、本川越駅の西口もきれいになって、非常にロータリーも使いやすくなっています。ただ、川越市駅がちょっと……ということをおもひまして、今日もここに来るまでに、川越市駅から本川越駅まで歩いたんです。そのときに、たまたまタクシーが通ってきたんですけれども、歩行者がいるとタクシーが入れない。歩行者優先なんで当然なんですけれども、タクシーが今度出ようと思っても、また歩行者がいるから出られないというのが続いていました。私は学生時代も川越市駅から本川越駅まで歩いてきたんですけれども、時間帯によっ

ては、あそこの道が開通したことによって歩行者天国状態になるんです。道がただでさえ狭い状態なので、車も通りにくいし歩行者も広がってしまい、歩道の白線も切れかかっている状態です。学生もよく使いますし、サラリーマンの方も朝の通勤それから帰宅される方もいらっしゃいますので、そこの部分を整備していただければなということを思いました。

川越市駅の前にあったスケート場がなくなってきれいに駐車場になっていると思うんですけども、それをタクシープールにしてしまうとか、あるいはロータリーをつくってそこを送迎専用にしてしまえば、川越市駅の隣の商店街というかあの空間がうまく使えるかなと思います。もうちょっときれいになって、さらに歩行者も通りやすくなるような気がします。

都市計画部長 川越市のまちづくりの基本的な方針として、川越市駅、川越駅、本川越駅、これについてはそれぞれ単独で積極的に開発していくということも必要ですが、それぞれ3つの駅を連携させて役割分担もしながらやっているところです。3駅周辺地区という考え方のもとに本川越駅については西口を開設して、川越市駅と本川越駅の間を徒歩で行けるようにしました。ただ、本川越駅に西口ができた結果として、川越市駅までの道路を、特に朝や夕方に、通勤通学する方が非常に多く通っておられて、自動車交通と歩行者との錯綜みたいなことが起こっているところでもあります。

一方で、川越市駅については、駅前のアクセス道路というか、あそこの周辺道路がまだまだ狭いというような問題もあります。あとは、もともとスケート場があったところが空き地になっているといったような話もありますので、そうした部分をうまく活用しながら、何か我々もできることはないのかと考えています。

特に、川越市駅について、もう一つ問題点があるとすると、東武鉄道の車両工場がありますので、我々としても東武鉄道と何かこういう形はできないでしょうかというような話はやらせていただいているところです。ご指摘にあった東武のスケートセンターの跡地のところを使いながら駅前広場をつくっていかうというご意見については、なるほどなと思いますので、そうしたところも踏まえながら、我々としても何かできることはないのかなと考えていきたいと思っています。

市長 川越市駅は、この70年ぐらいほとんど形状が変わっていないんじゃないかと思われれます。川越の町なかにある駅としては一番古びている駅です。

都市計画部長の話に出てきたように、今、東武鉄道と話を始めているところなんですけど、駅は東武鉄道のものでありますから、土地も含めて、こっちが勝手にああせいこうせいというわけにはいかない。やっぱり東武鉄道とよく話し合いながら役割分担をしつつやっていくという形になります。

お金もいっぱいかかることでして難しい面もあるんですけども、このところで東武鉄道に前向きな姿勢が出てきた、そういう感じがするので、ぜひ近々川越市駅は改修したいなと行政のほうは思っています。

《街灯（防犯灯）の設置》

意見 市街地から離れた地域でも、大きい道路とかは結構街灯がたくさんあって明るんですけども、そこから離れた住宅街だったり畑とか田んぼとかが周りにあるところだと本当に街灯が少ないです。個人的な話になりますが、私の実家の最寄り为新河岸駅でして、道路は整備されてきれいなんですけども、住宅街が多かったり畑があったり、学校帰りとか夜だとスマートフォンのライトを持って歩かないと暗くて怖いなと思うことが結構あるんです。

部活帰りの時間帯、夕方になると、もう今の季節だとすごい暗くなってしまったり、路肩ががたついているところは自転車で走行するのも怖いなと思うことがあるので、ぜひ検討していただけたらと思います。

市民部長 街灯には、街路灯と防犯灯の2つの種類がありまして、皆さんがおっしゃっているのは、概ね防犯灯のことだと思います。

防犯灯は、市街地には結構ついていますが、離れたところになりますとつかなくなってきてしまったり暗いところが多くなっていると思います。

防犯灯は、犯罪を防ぐという防犯を、地域の皆さん、自治会の方、あるいはいろいろな活動をしている団体の方々と一緒になってやっていきたいと思います。

その中で、防犯灯は照明ですから電気料がかかります。その電気料は、市が全部払っているのではなくて、自治会で半分負担していただいて、残りの半分以上を市が負担することで、一緒になって管理をしています。そのため、防犯灯を新たにつけるには、自治会からの申請ということが大原則になってきます。

それともう一つ、先ほど郊外のほうが少ないというご意見がありました。防犯灯

を設置するところは、電源の問題があって一番多いのが電柱です。そのため郊外ですと、どうしても電柱の数も少なくなってしまうます。

自治会長や自治会役員の方からの防犯灯の要望というのはすごく多いんです。ただ、予算が限られているので地域に偏らないように全般的に少しずつ増やしていこうと思っています。犯罪をなくすために、少しずつやっていますのでご理解いただければと思っています。

市長 歩道がついているような大きい通りについては交通量だとか交通の危険性を防止するために街路灯を道路の管理者がつけています。どこにでもつけられるわけでもなくて、大きい通りで大きな柱を立ててつけるものですから、おっしゃっていたような帰り道というよりも、どちらかというと交通量が激しくて交差点とかが危ないようなところにつけています。

まだ十分じゃないかもしれないですけども、交通安全上、必要なところにも目的に沿った形で協力していきたいと思いますので、よろしくをお願いします。

《自転車道路の整備》

意見 川越駅の周りとかは自転車専用レーンが増えてきて大変通りやすいなと思っているんですけども、少し離れたところの小さい駅になってしまうと、その周りが道が狭いのもあるのでつくるのは難しいかなと思うんですけども、駅近ということで交通量もあって通りづらいなというふうに思っています。

最近、雨だったりすると道にすごい大きな水たまりができてしまって自転車が通れないようなところになってしまうこともあるので、そこを直してほしいです。レンタルサイクルが増えてきていると思うので、それを利用しようと大学内とかでそういう話も出るんですけども、何で使わないのかとなったときに、道が狭くて人が多いからそれを使うのが怖いという意見が学内ですごく出ました。道をつくったりとか専用レーンをつくることでレンタルサイクルを活用してくれる人が増えるかなと思います。

建設部長 自転車の専用レーンをつくるには、車道があって歩道があって、その上でさらに自転車の通行レーンをつくらなくてはならないので、10メートル以上の道路でないとつくれません。

今、駅前のところを整備したときに幾つか広い通りをつくっています。それから、

都市計画道路とって、先ほど出た北環状線というのもそうですし、新河岸駅前にできた大きい通りもそうですけれども、ああいったところについては専用レーンがつかれるような状況です。

歩道にしても自転車の通行帯にしても、現状の道路の脇のところを少し加工してつくるというのがあるんですが、ただ、それにしても順番でいくと歩道が先で、そうすると自転車の通行帯はなかなかつかれない。

あともう一つは、広い歩道のところは自転車歩道とって自転車と歩行者が通れるような歩道、3メートル50ぐらいの歩道ができるんです。川越駅前には西口がそうです。ですから、市街地ですと専用の自転車レーンは難しいところです。

あと、おっしゃっていたようなまだ駅前整備とかしていないような駅前の道路については、できる範囲でまずは白いラインなんかを引いて、多少路側帯というのを広げて歩行者が通れる、自転車が通れるような道路をつくるというのがあります。

もしくは、もっと大胆に、例えば一方通行とかにしていくと、1車線だけ車を通せばいいので、それであれば自転車も歩行者も通れるようになるという可能性もあるんですが、その辺は合意形成をしなければなりません。道路を広げるか、今言ったような合意形成をするか、そういう中で歩行者の通行帯をつくった上で、プラス自転車の通行帯ということになります。そして、自転車の通行帯はつながるようにつくらなくてはならないということもあります。ただ、昔は警察で設置した自転車通行帯しかなかったんですけれども、市のほうでも青い矢印の通行帯とかがだんだん増えてきてはいますので、あとは道路を広げながらやっていくということでご理解いただければと思います。

市長 建設部長が言ったような理由で、なかなか思うように自転車レーンを延ばしていけないという面があります。今後、一方通行等を採用するなどの方法により、少しずつでも増やしていきたいと思っています。

《観光地の整備》

意見 一番街や時の鐘の周辺は観光客がたくさん来ると思うんですが、車通りが多くて観光客が写真を撮りづらいというのが問題点です。

最近では、写真を撮ってSNSにアップするという人がとても増えてきているので、ゆっくりと写真が撮れるスペースなどをつくって見たらどうでしょうか。

産業観光部長 ご指摘のとおり、一番街の時の鐘の周辺は、観光客がすごく多いのですが、道路には車が普通に通るので、やっぱり危ないというのがあります。

今、お話があったようにお店の脇等で写真を撮れば、それをSNSに載せるということもできると思います。ただ、歩道も含めて道路は人の通行のためにあります。そこから、さらに中に入ると、民間のお店や住んでいる人がいる民地があります。そこについては行政でああしてください、こうしてくださいというのは言えないという状況があります。

そうした中で、例えば市が購入して市の土地になったところを今のご指摘のような形でやっていくのも一つの方法かなというのがあります。

あと、川越を訪れる観光客の皆さんから、川越市の中には休憩するような場所がない、あるいはトイレが少ないという指摘も受けています。これについても市が、観光客が来るようなところを購入できれば、例えば奥のほうにトイレをつくって手前に休憩や写真を撮るようなスペースができれば、今お話しがあったようなことが少しずつよくなっていくのかなと考えています。

それと、仲町から連雀町という交差点の間があるんですけども、そこについては「昭和の街」という形で地元の商店街が中心にいろいろ取り組んでいます。

そこには、大きな段ボールか何かでつくった人の絵を描いて顔だけ切り抜いてそこから顔を出して写真を撮るといようなものを、蓮馨寺の境内の中とかあるいはお店の軒先にありますので、そういったものも一つ参考になるのかなと思っています。

観光客にまた来てみたいと思っていただきたいので、今いただいたようなご意見を取り入れて進めていければと思っています。できる、できないは別として、また、それを行政として取り組めるのか、行政が直接できなければ民間の事業者にもお願いしていくのか、いろいろな方法があると思いますので、ご意見どんどんお寄せいただければと思います。

《観光地におけるごみ箱の設置》

意見 高校の友達と時の鐘の周辺とかによく遊びに行っているんですけども、SNSのハッシュタグで川越食べ歩きというのがあります。そういうのを見て友達と遊びに行っているんですが、そこで買った食べ物を食べるまではいいんですけど

ども、食べた後の包み紙とか、おだんごとかが刺さっていた串だとか、そういうものを捨てるごみ箱が町なかにはないのかなと思うことが多くありました。どんどん手に増えていくごみを捨てる場所がないと、次に何か食べるとなっても、ごみ捨てられないからねみたいな話しによくなります。外国人の方も最近多く川越の町なかで見かけるんですけれども、自販機の横にはペットボトルのごみ箱があると思うんですけれども、そこに目を向けるとペットボトルや缶じゃないものが入っていたりします。最近ではタピオカとかそういうドリンクのカップが入っていて、ちゃんとしたごみ箱もいっぱいになっていて適切に活用されていなかったりして、外国人の方もごみをずっと持って困っている様子をよく見かけます。ごみ箱が町なかには多くあれば観光のPR要素にもなるのかなというふうに思っています。

環境部長 一番街、特に蔵造りの町並みには、非常に観光客が増えています。そんな中、商店を見ますと、持ち帰りや食べて歩けるようなものが非常に多くなっているんです。

環境部では、ごみの分別をしてポイ捨てをしないように、皆さんにお願いするような立場で活動しています。商店街も、5月のゴールデンウィークのときはビラを配ったり、お店で食べた串はそのお店で預かってくれませんかというポスターをつくったりして、試験的に対応いたしました。

高速道路を見てもわかると思うんですけれども、一極集中するとごみ箱を設置しても急にあふれてしまい、次の集めるときまで汚いといったような事例もあります。今後については、商店街の方々と産業観光部と協議しながら少しずつ改良してまいりたいと考えています。私個人的には、食べたお店で返して帰ってもらうのが一番いいのかなと考えるんですが、皆さんが協働してごみを預けられたり、もとに戻せたりするような仕組みづくりが一番いいのかなと考えています。

もう一点、明日はごみゼロ運動というのがございます。朝から地域の方にごみを捨ててもらって町なかをきれいにするような活動もしておりますので、もし早く起きたら見ていただきたいと思います。

産業観光部長 ごみについては、頭の痛い問題です。ごみ箱があれば、当然、そこに捨てておしまいなんですけれども、そうするとごみ箱を誰かが片づける作業が生じます。

基本的には先ほど環境部長が言ったようにごみになるものをお店で販売したなら、

それはそこのお店で回収できるのが一番いいのかなと思います。一般の家庭で出るごみは、当然、市役所の収集車が回収して資源化センターに運んで焼却等しています。お店で販売したものは、事業系ごみという形になり、それで利益を得ているわけですから、当然、その中で処分していくというのが企業の大前提なんです。

かといって、観光客一人ひとりにご理解いただくというのは難しい話ですので、そこは何か対応していく必要もあるのかなと思っています。ごみ箱があるほうがいいのか、なくて皆さんお持ち帰りになってもらうというのがいいのか、その辺がやっぱり難しいところかなと思います。

今年の10連休のゴールデンウィークでは、市で商店街さんとお話をさせていただいて、ビラを配ってごみを商店で回収していただくような形をとりました。そのほかに、ごみ箱というのではなくてエコステーションという名前をつけて、一番街の通りに2カ所設置して、瓶・缶、それとペットボトル、可燃物、串、この4種類に分けて集めました。

結果として、合計で瓶・缶、ペットボトルが330キロ、あと可燃物あるいは串というのが940キロ集まりました。10日間で合わせれば1トンを超えています。串については合計で7,390本集まりました。

このようにエコステーションという形で、言ってみればごみ箱を幾つか用意して分類して捨ててもらおうという方法もありますし、川越市の商店街の中で独自の取り組みを行っているところもあります。串が出てきたら、その串をごみ箱に捨てるのではなくて回収はするんですけれども、四角の升に切って、例えばあなたは何歳ですかというので、10歳代、20歳代、30歳代、40歳代で分類する。将来何になりたいですかということで、例えばお金持ちになりたいとか社長になりたい、スポーツ選手になりたい、そういった形で、食べ終わった串を例えば20歳代で将来社長になりたいければそこに入れるという形で、捨てるというよりもおもしろくするという形で取り組んでいる商店街もあります。

川越市の場合、行政がいきなり何かするというのではなくて、やっぱり商店街といろいろ話し合って、家庭のごみではない事業系のごみですので、それで生計を立てているお店については、市民の税金を使って行政が直接やるという以前に、商店街として何かしら取り組みができないかということです。じゃあそれでも対応できないところ、そこをどうしていこうかといったときに、やはり商店あるいは地元の

自治会、行政、そういったところが話し合いを進めて、どこまでを商店街がカバーして、カバーし切れない部分を行政がやるとか、そういう形で対応していくのが今のところは一番いいのかなと思います。

理想を言えば、ごみ箱も何もなくて、ごみが出たものは個人で持って帰ってもらったり、お店で捨てることができたりすれば、あるいは食べ歩きで、お店まで戻せないとなれば、それを自分で袋に入れて持って帰ってもらえれば、町なかのきれいになるしマナーの向上が図れるのかなと思います。

日本人だけではなくて、いろんな国の観光客が来ますので、そうするとマナーが全然違います。例えば横断歩道の信号一つとっても、違うところがありますし、アイスクリームを食べて、その汚れた手を次に入るお店ののれんで拭いちゃう、あるいは商品の布のようなもので手を拭いちゃう、そういった外国の観光客も中にはいます。そういった面で、マナーもごみ問題と一緒に向上させていくような取り組みが必要なのかなと思っています。大変頭の痛い問題ですけれども、継続的に取り組んでいきますので、よろしくお願いします。

《フィルムコミッション》

意見 飯能市では、芸能人やドラマ・映画などの呼び込みをしていると聞きました。川越でもNHKのテレビ小説で以前ドラマをやっていたと思います。そういうのを見ていた人はここに行きたいとなって、もっとより観光客が増えると思うんです。

私も東京などで撮影をやっていたところによく行ったりして、それだけでも満足して楽しいなと思うことが多いので、何かそういうことをやっていたら教えていただきたいなと思います。

広報監 川越にロケに来ませんか、川越で何か撮ってくださいという活動は、フィルムコミッションと言います。広報室ではフィルムコミッションを扱っています。川越では、魅力があるところがいっぱいありまして、例えば一番街や時の鐘など、自然では伊佐沼、あと、お店もいっぱいありますので、そういう情報をロケーションライブラリという市のホームページに公開しています。

今年度は、4月から9月までの間に21件の相談がありました。内容としては、よくテレビでやっているバスの旅、芸能人が鰻を食べたりとかそういうのをやっていると思うんですけれども、そういったバラエティーのテレビやコマーシャル、あ

と、カラオケ用のミュージックビデオといったものがあります。

こういった活動というのはどんどん広がっていくと思いますし、新たな魅力を見つけてロケーションライブラリに載せていきますので、これからも増えていくと思います。

あとは、ショートショートフィルムフェスティバルというのをやっております、川越で25分以内の映画を撮ってもらう催しです。俳優の別所哲也さんが主催しております、その発表会を表参道ヒルズでやっています。その中で、キテミル川越ショートフィルム大賞というのがあります、川越で撮ってもらった3つの映画に、大賞と奨励賞をあげました。

また、10年ぐらい前でしたか、NHKのテレビ小説「つばさ」の舞台が一番街でしたし、昔から川越を舞台にしたドラマというのはあるんです。ドラマだと影響力があると思いますので、これからも使ってもらえるように頑張っていきたいと思っています。

市民部長 向こうからのオファーもあるので、川越市で努力してもうまくマッチングしないことも考えられますが、市でも積極的にそういう取り組みをして、もし、川越を題材にしたドラマができたらぜひ見てもらって、そこへ行ってもらえればと思います。

《災害時における防災行政無線》

意見 最近、大雨で大きな被害が川越もあったと思うんですけれども、その際に防災無線を鳴らしていると思うんです。ですが、大雨の日って、私のうちは雨戸も閉めてしまうし、雨で音も聞こえなくて、防災無線が聞こえなかったんです。母のママ友のグループで、今何て言っていたみたいなりとりがあったらしいので、何回も流していただきたいのと、あとできることなら、雨の日、自然災害のときなどは音量を大きくしていただくとかそういうことをやっていただけるといいなと感じています。

また、これも私事なんですけど、東中学校と古谷小学校は土地がすごい低い場所にあるんです。古谷小は、特に道路の下の位置に校庭や体育館があるので、私のうちでは自分のうちより低いところが避難所になるんです。また、土手に近いので避難するのには怖いということで避難場所にすごく迷ってしまいまして、その検討をし

ていただければなと思います。

古谷、芳野のほうは、川越小まで来なくちゃいけないで、それもととても大変なのに、高齢者も多いので避難にもすごく時間がかかりますし、その面でも幾つか考えていただければなと思います。

意見 その件は私も言おうと思っていましたけれども、ハザードマップに関しては国土交通省もそうだし川越市のホームページでも出しています。気になって調べたんですけれども、ちょうど古谷地区のあの土手沿いが浸水と倒壊、水による洪水とかによって倒壊する地域で、なおかつ避難所までがさっき言ったように川越市内の高台、市役所は結構高いところに位置していると思うんですけれども、そこまで行かないと無理ということになっているんです。

そういうのがもともとわかっているならば早目に避難をしたい。となると、情報がどうなるか、防災無線が聞こえないんだったら、じゃあ川越市で今やっている防災アカウントがツイッターであると思うんですけれども、その情報をもうちょっと早く出したほうがいいんじゃないかなと。当日、その台風の動きをばっと見てみたら、そこまでツイッターが稼働していなかったというのが事実として残っているので、政府もそうだし内閣防災もかなり情報発信をしているし、避難所の情報だけじゃなくてどういうものが災害の防災あるいは減災につながりますよとか、こういう地域を開設していますだけじゃなくて、今、どういうところで停電が起きてここは冠水でというのを、活発な情報が流れればなというふうに思います。

意外と若者だけじゃなくて高齢の方、大人の方もそうですけれども、ツイッターを利用している方が多いので、ぜひそれを使っただいただければなと思います。

総合政策部長 大きな雨が降ったときに防災行政無線がなかなか聞こえないというご意見はいただいております。現在、防災行政無線をよく聞こえるようにするため、デジタル化という新たな構造の防災行政無線にしているところです。そのほかに、特に被害が大きなところにエリアで見えるということで、携帯、スマートフォンに、今こういう状況なので避難の準備を進めてくださいという内容のエリアメールが流れています。また、広報車で回りますとかホームページに出すということもしております。それからすぐにではありませんが、報道機関を通じてテレビにテロップが出たりとか、あとラジオも場合によっては使ってもらうような形でやっております。

また、避難所が遠いところあることについては課題があるものと認識しております。

す。一方で、近いところがいいかということ、近いと逆に土地が低かったりしていざ逃げて浸水してしまうということもありますので、避難所と指定するところはある程度安全な場所になっていることが必要だと考えます。先日の台風では二十数カ所ぐらい避難所を開設したんですけれども、非常に多くの方が避難されてきました。本来は避難所へは歩いてきてくださいということになってはいますが、車の方も結構来ていて、その辺も避難所の問題ということで認識しています。

今回出たいろんな課題を改めて認識して、より皆さんの安全が早く確保できるようにしていきたいと思います。

高齢者とかすぐに逃げられないという方には、避難準備情報ということで、支援が必要な方たちは早目に準備してくださいという情報をなるべく早く出すようにしております。今後は、このような仕組みについても皆さんに周知していかなければと思っています。

市長 今回の台風 19 号は荒川も、水が堤防を越えてしまうないし決壊の心配が真剣にあったんです。入間川もそうです。あの地域一帯に対して避難勧告まで出したと思うんだけど、やっぱり勧告を出すのがちょっと遅かったから、たしか夜になってから出すことに。

意見 2時過ぎでした。

市長 2時過ぎでしたか。実際に避難した人が住んでいる人に比べれば少ないという状況がありました。そういう中で、避難場所も含めて見直さなければならない点が幾つかあると思っています。

一つは、防災行政無線は嵐のときは聞こえづらいこと。今は、エリアメールが届いているけれども、高齢者はスマホとか携帯を持っていても余り活用できないから、果たして有効に届いているのかよくわからない、そういう部分があります。伝達方法をもう一回考え直さなきゃいけないかなというのが1つと、もちろん、避難準備情報とか避難勧告とか避難命令という避難指示、それをなるべく早目に出すこともやっていかなきゃならない。ただ、余り早目に出すと、何でこんな時期にこういうのが出るんだろうと思って実際に避難しない人が多くなってしまうということもあるので、なかなか難しい面があるんですけれども、いずれにしても早目に出す。

それから、もう一つ、避難場所についての見直しはもちろん考えています。芳野、古谷、南古谷は一帯が低い土地だから、高いところまで逃げるにはすごく距離があ

るんですよ。今、学校を避難場所に指定してあるんだけど、逃げるとしても学校の2階以上とかそういうような形にしなければならない。それから、この間、古谷地域の自治会から要望をもらったんだけど、運動公園のスタンド、あそこは高い場所なんだからいざというときに、避難勧告が出たときに入れるように鍵をあけてくれという、そういう要望をもらいまして、鍵を自治会長に預けると。だから、必要に応じて自治会があけて、あのグラウンドのほうからスタンドに逃げることができるように今考えているところです。あの辺については、運動公園の大きい体育館も2階だったら水が来る心配はほとんどないから、2階を一般の人の避難場所にするというようなことも考えています。

さらに、もう少し時間がかかる考え方としては、市民センターをつくり直すときにできるだけかさ上げして土盛りをして高くすると。例えば、古谷市民センターをつくり直すときは2メートルぐらい土を盛ってその上につくって、いざというときの避難場所にできるような、雨が氾濫しても市民センターの機能を損なわれないような、そういうようなつくりにすべきなのかなとか、そういうことを考えています。これは長期スパンで考えていかなきゃならない問題なんですけれども、そんなことも考えています。

ということで、行政のほうも今回の雨を見て、さらに時間を早めて検討しなきゃならないという点は自覚しております。

建設部長 ご質問の中に、リアルタイムでいろんな情報の提供という話があったかと思えます。市が管理している河川では、ライブカメラがついて水位が見えるようになっているところもありますけれども、例えば道路の冠水であるとか、どこでこういう被害が出ているだとかという情報は正直なところ、市の内部でさえも上手に把握し切れていないんです。リアルタイムで提供ができるような状況になっていないということは、つまりは適切な対応ができにくいようなことがあります。都市によっては、防災のアプリのようなものを、もしくはデジタルマップみたいなものを使って提供しているところもあります。

川越はまだそこまでなっていないんですが、そういったことも考えていかないと、事前の情報もそうですし河川の情報もそうですし、お天気の情報もそうですが、それがご提供できれば、避難場所だとかそういった考え方に利用できる場所もあると思えます。スマホを利用できる方には、大分影響しますし、また、お年寄り以利

用できない方には、ほかの方法なども考えながら、これから対応していかなければと思っております。

《若者への情報発信》

意見 中学生、高校生、大学生などの若い世代は、広報だったり市のホームページ、自治会の回覧板などを余り見る機会がない、言ってしまうと余り興味がないという人が多いかと思うんです。情報発信の方法として、若い世代向けにツイッターがあることは私も知っているんですけども、インスタグラムなどのSNSをもっとうまく活用してはどうかという提案をさせていただきます。

具体的な提案としては、例えばインスタグラムですとストーリーという機能があるんですけども、興味があったり、今まで自分が調べたりした内容に関連することが広告として出てくるんです。そういう機能を使うと、例えば川越に似たような都市に観光に行きたくて調べていたりすると、川越が出てくるようになるんです。そうすると、川越に観光に来ませんかといって、ぱっと目を引く写真だったりが出てきます。大体10秒ぐらいなんですけれども、広告がぱっと出てくるとそれはとても目を引くし、観光客を呼び込むことにもつながりますし、また市内に住んでいる人にもいいお知らせができるんじゃないかなと思って提案させていただきました。

広報監 今、ストーリー機能というのを初めて知りました。お話を伺いましたので、LINEとかツイッター、あとインスタグラムについてはこれから研究して、もっと若い人に魅力的な情報をお伝えできるようにしていきたいと思います。

ちなみに皆さんは、市の広報紙には、どんな情報が載っているといいですか。

意見 広報の中に挟んである消防だよりなどがありますけれども、例えばああいう形で、商工会議所とかそういう方々に協力してもらって、お店側の視点でこういうものを売っていますという情報を載せたり、あるいは、氷川神社はかなり有名な観光スポットですので、そこの方に協力してもらって情報を載せたりするのはいかがでしょうか。一番街の商店街がインスタグラムを運営して、お店の写真を撮って、こういうのを売っていますとやってみたり。全部広報室がやらなくても、恐らく、やってもらったほうがうまくいくのかなと思います。

広報監 そういったまちやお店の情報が知りたいと。

意見 そうですね。

広報監 わかりました。特定のお店に利益がいつてしまうと行政としては不公平になってしまうので、どういふ方法をとればうまくいくのか研究させていただきたいと思ひます。

《ときもの商品化と川越の魅力発信》

意見 川越のマスコットでときもつていう魅力的なキャラクターがいてると思ひうんですけれども、グッズが発売されてるというのを最近まで知らなくて、この集まる時に初めて知ったんです。

深谷市のふっかちゃんとかそういう有名なキャラクターというのはもう結構知られてると思ひうんですけれども、川越の魅力的なキャラクターであるときもというのをもうちょっと宣伝していったほうが、川越についてもっとよりよい理解を得られるんじゃないかなと思ひています。ふっかちゃんを調べたときにふっかちゃんというのはLINEスタンプとかファッションとかタオルとかハンカチとか文具とか食品とか生活とかアプリとか、アプリでトランプのアプリみたいなものとかもいろいろ商品化がされていて、その影響もあつていろいろ外に知られてるなというのを感じたんです。

ときもでも、ふっかちゃんを真似てじゃないですけれども、そういう外にもっと知られるような商品化というのをしていったほうが、川越という魅力がもっと伝わるんじゃないかなと思ひて提案させていただきました。

産業観光部長 ときもというのは、サツマイモを切つたような形のところに顔があつて、頭に時の鐘をかぶつてるキャラクターなんですけれども、観光協会で4種類のグッズを販売してあります。ときもストラップですとか、ぬいぐるみといったものがあります。

あと、民間の企業のほうで、ときもを使つていろんなものを扱つていて、例えば食べ物ですとか飲み物にそれを入れて販売してあるということがございます。

また、LINEスタンプにはすでになつてるので、ぜひ広めていただければと思ひます。

今後ぜひご意見をお寄せいただいて、商品化できるようなものがあれば、観光協会などで具体的に商品開発を進めていただければと思ひております。

《SNSの活用①：ときも自身からの発信》

意見 今のインスタグラム、ツイッター、ときもの活用方法で思いついたのですが、ほかの市とかでもキャラクターが運営しているツイッター、インスタグラムというのがあります。市がやるんじゃなくてキャラクターが一つの人格となってツイッター、インスタグラムを運営しているところもあるんです。

そうすると、意外と面白い回答をしてくれるところもあって、それこそ裏の事情をぼろっと言っちゃうようなかわいい場面もあるキャラクターもいます。インスタグラムだったら、ときもと一緒に写っている写真で、ここの食べ物だったり建物だったりがお勧めだよというのを伝えやすくなると思いますし、ツイッターは文章だけですので写真もいらないから、そのままときもがしゃべっているふうに魅力を伝えることができると思うので、ぜひ検討いただければと思います。

広報監 例えばどこがやっていますか。

意見 市だと難しいんですけども、企業のキャラクターがやっていたりとか、そのまま会社がやっているところも結構あります。そういう会社やキャラクターがやっているところは結構有名になってフォロワーが増えているので、やってみたらどうかと思います。

総合政策部長 この間、どこかの水族館のキャラクターがお客さんが来ないってぼやいていました。

意見 企業でもいろいろツイッターをやっています。中の人としてつぶやいて、商品を紹介するけれども、普通のことつぶやくし、たまに今日は何の日ですとつぶやいたりもします。

広報監 そうするのはたまたま見ているのですか。

意見 バズると言い方をするんですけども、爆発的に人気が上がるときが一瞬あるんです。ツイッターって情報が逐一流れるので、これすごいとか超人気というのが一瞬で出てくるんです。それをバズると言っています。

広報監 企業のSNSはバズったから見たということですか。

意見 そうです。中の人もおもしろいから続けて見ようとするし、あとは、企業同士で話したりするんです。川越市だったら友好都市でもいいんですけども、ほかの市でもいいですし、そういう中の人同士の会話とかもオープンで話すと、おもしろいじゃんこの市となって、それが相乗効果になって、うまいこと観光につなげて

いくこともできるのではないかと思います。

市民部長 すごい貴重なご提案でございまして、これを実現してふっかちゃんとかくまモンに勝たなきゃいけないですよ。ありがとうございました。

《SNSの活用②：共通ハッシュタグの使用》

意見 先ほどから話されているSNSの活用について、私も思いついたことを言わせていただきたいんですけども、ときものアカウントがときもとしてしゃべっているとか川越市の魅力を公式のアカウントでこういうお店がありますよとかこういう食べ物がありますよというのを発信する中で、1つのハッシュタグに統一すればいいと思います。インスタグラムやツイッターとかでもシャープのマークのあとに、例えば私だったら、先ほど述べたように川越食べ歩きとかで調べたりして、いろんなお店があるんだと高校で友達と話して、じゃ今度の休みに行こう、部活のあとに行こうと話しています。共通のハッシュタグをつくることによって1つ調べればいろんな情報が一遍に見られて、その中でときもが写っていたら、こういうキャラクターがいるんだとあって、いろんな情報が一遍に知られるようになるのがSNSのハッシュタグのいいところなのかなと思っています。中の人としてのツイートでもそのハッシュタグをつけておけば、例えば食べ物を調べるつもりでツイッターでハッシュタグで調べたとして、それでたまたまおもしろいツイートが目について、これおもしろいじゃんとなって友達同士でも広がったりするのかと思います。そういう共通の何かが1個あったとして、例えば、それを広報とかに載せて、情報をどんどん公開していますよとかも知られたら、そういうのがあるんだという興味が湧いたりするのかと思います。言わせていただきました。

広報監 令和元年になったときに、令和初めての婚姻届を出す方がいっぱい来てくれたので、写真を撮ってあげました。そうしたら、さいたま市に住んでいる方が来てくれたんです。何でわざわざ来てくれたのかなと思ったら、写真を撮ってもらった方々がSNSに流していたんです。それを見て、何だ川越でこんなことやっているのかとって来てくれたという、やっぱりそういう意味ではSNSって結構意外なところで効果があって、今まで市役所がやってきたものとは別なところで波及効果が大きいんだなと私個人的には感じました。

《広報紙の配色、SNSの活用③：共通ハッシュタグの使用》

意見 広報の色について、今の若い人たちは、やわらかい色が好みで、紫にちょっと白を入れた色みたいな、そういう色だったらもっと見る方がいるんじゃないかなと思います。

それと、ツイッターとかで共通のハッシュタグをつけるということについて、ジャニーズが大阪万博でコンサートをやる予定だったんですけれども、台風で中止になってしまいました。そのことを、ファンたちによって、エアGOGOEXPOというハッシュタグをつけたらジャニーズのほうで反応して、エアGOGOEXPOというので仮のライブみたいなのを動画で流したりしました。そういうのってトレンドとかにも入ってくるので見やすいし、誰もが1回は押してみたいくなるので、そういうみんなが見るようなハッシュタグはやっぱりあったほうがいいなと思います。

広報監 色の三原色ってご存じですか。シアン、マゼンダ、イエローのことです。広報で使っている色はシアンなんです。原色なので混ぜなくて済むことから、多少コストが安くなります。

でも、もう10年ぐらいこの色を使っているので、皆様のご意見を参考に、今後、色については検討をしていきたいと思います。

市役所では、財政が厳しいので、4色カラーというのはどうかなというのもあります。そうすると2色になりますから、皆さんが好きな色というのを広報に使っていききたいと考えております。

あと、ハッシュタグについては、もうちょっと研究します。ありがとうございました。

《SNSの活用④：投稿文面の工夫》

意見 私、川越市の公式ツイッターをフォローしているんですけども、文面がすごく堅苦しく事務的な感じがします。博物館や美術館の展示のお知らせをしているのはわかっているんですけども、博物館や美術館の公式サイトのURLを貼って、今日から何日までこういう展示をしていますというツイートをするだけという。

ツイッターの担当の方が実際に博物館や美術館に行って、こういう展示をしてい

ますよという写真もつけたら、こういうのがあるんだとか、これ気になるから行ってみたいと思うので、やっぱり目を引くのがSNSではすごく大事かなと思います。もちろん、ツイッターは文章を載せるのがメインなので、そういうのはインスタグラムのほうがいいのかなと思うんですけども、公式ツイッターがあるということなので、そういうところにも力を入れて、文面ももう少しやわらかいというか絵文字を使うとか工夫してみたらどうかなと思いました。

広報監 やっぱりインパクトがあるのは文字よりも画像というか絵ですかね。わかりました。なるべく皆さんが来たくくなるような絵、画像とか文章を使っていきたいと思います。

《少年の船・翼事業の発展》

意見 我々、川越市少年の船・翼修了者の会というのも、川越市の少年の翼という事業が成り立ってこそその会なわけでありまして、大変手前みそになってしましますが、こういう立派な意見を持っている者が非常に多く集まっています。

というのは、やはり翼というものを経験したというのはかなり強いものでして、ほかの市には全くないような事業です。友好都市との関係は、ほかの市ではあるんでしょうけれども、学生、生徒間でのものはない。子どもたちの中での交流というのがやっぱり必要でありますし、これからその世代を担っていくという面に関しましても非常に有効な事業だと思っています。

ですので、どうかこの事業がもっと成功するように、予算をかけろとは言いませんけれども、もうちょっと広げていくというようなものとか事業の若干の見直し、今年も行って、やっぱりここが違うかなとか反省かなというのがあると思いますので、そういうのを含めまして、よりよい事業になっていけばなと思っています。

市長 貴重なご意見として賜りました。こういう大勢の人たちが少年の翼を経験しておいでなので、こういう形に限らず市の関係するところでいろんな役割を果たしてもらえたらいいなと思いますので、どうぞよろしくお願いします。

市長 本日は本当に皆さん方の新鮮で大変有益なご意見を頂戴しましてありがとうございます。

大変驚いたことなんですけど、若い人が川越のこと、地元のことを一生懸命考えて

くれているということにとってもある意味では新鮮な驚きを感じました。自分自身が高校生、大学生のころは地元のことより、東京のほうへ目が強く行っていたようなそういう記憶なんです。皆さん方のように若い中学生、高校生、大学生の人たちが自分の住んでいる地元のことを一生懸命考えてくれているということに、本当に驚いたし感動しました。

これからも機会を捉えて行政に向かっていろんな意見を述べていただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いします。

今日は本当にありがとうございました。